

取り組み事例発表(山梨県)

平成24年9月13日

本日の発表内容

①本県での取り組み

②CAN-DOリストの形で学習到達
目標を設定することに関して

現在の取り組み

山梨英語教育改善プラン(H24~H26)

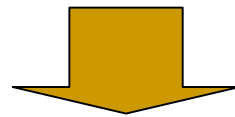
【研究の柱】

- ①3年間を見通したcan-doリストの作成
 - ②単元設計の方法
 - ③授業は英語で行うことが基本
-

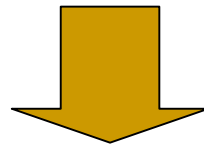
②単元設計の方法

【研究テーマ】

バックワードデザインによる言語活動を取り入れた単元設計とルーブリックを用いた評価方法の研究及びその実践のための協働的指導体制の確立



県レベルで言語活動とその評価についての研究を推進



can-doの有効性や課題を多くの先生が認識

CAN-DOリストの形で学習到達目標を設定することに関して(先生方より)

スキルベースだと教科書を限定する必要がなく、またシチュエーションなども教員の裁量に任されることが多く教員としては使い勝手がいいのかもしれない。その場合には、学習タスクや評価タスクがついていると使い勝手がいいのでは。しかし、生徒の立場から見ると漠然とした表現で自分の現在地や目標とする地点が見えづらい。一方タスクベースでは、本校で前年度と同じパフォーマンス課題を実施したが、準備に手間がかからなかった。昨年の課題点に関しては改善ができ、とても使い勝手がよいものであった。
